

PK スリバスタバ	RDSO 総局長
田端 浩	国土交通審議官
ディープ・カプリア	CII トレードフェア委員会会長
古澤 祐二	東日本旅客鉄道副社長
大橋 忠晴	海外鉄道推進協議会副会長

ご出席の皆様

最初に、日本の鉄道技術をインドに紹介する「日本鉄道シンポジウム」が開催されることに祝意を表します。日本の鉄道産業のリーディングカンパニーや研究機関による取組みをインドに紹介するとともに、同シンポジウムを通じた日印両国の鉄道関係者のネットワークの形成により、インド鉄道産業の発展とメイク・イン・インドの実現に貢献するシンポジウムとなることを祈念します。

現在、ムンバイ・アーメダバード間高速鉄道（MAHSR）、貨物専用鉄道（DFC）、メトロ事業では日印両国が協力して事業を推進していますが、インド政府は、インド鉄道産業の発展のためには技術移転とメイク・イン・インドの重要性を強調しています。現在、その実現に向け日印両国が方策を検討しているところです。インドは成長著しい国内市場のみならず、欧米、中東、アフリカ、ASEAN等の海外市場への輸出向けの生産拠点となることを目指しており、インドにおいては、日本企業の積極的なインドへの進出が期待されています。

インドの社会経済が成長するにつれ、インド鉄道産業は非常に潜在力が大きい産業です。日本が長年にわたり培ってきた鉄道産業における安全性、効率性、快適性に関する技術や知識はインドの鉄道産業の発展にも役立つものであるとともに、日本企業にとっても多くの商機をもたらすものであると考えています。今回の「日本鉄道シンポジウム」における両国の鉄道関係者の率直な意見交換を通して、今後、両国の鉄道がともに益々発展していくことを祈念します。

以上